

第6回一関市総合教育会議 議事録

- 1 会議名 第6回一関市総合教育会議
- 2 開催日時 平成29年11月21日(火) 午前10時15分から午前11時45分まで
- 3 開催場所 一関市立山目小学校
- 4 出席者

- (1) 構成員

勝部修市長、小菅正晴教育長、千葉和夫教育委員、佐藤一伯教育委員、伊藤一志教育委員

- (2) 事務局等

熊谷市長公室長、佐藤政策企画課長、佐藤政策企画課主幹、
宍戸政策企画課政策企画係長、佐々木まちづくり推進部長、
佐川まちづくり推進部次長兼いきがづくり課長、横山まちづくり推進課主任主事
中川教育部長、千葉一関図書館長、小山教育部次長兼学校教育課長、
佐藤教育総務課長、佐藤文化財課長兼骨寺荘園室長、千葉一関市博物館次長、
中田教育総務課課長補佐兼庶務係長、和賀指導主事

- 5 議題

グローバル化に対応した教育環境の整備について

(会議に先立ち山目小学校における英語の授業を見学)

- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者の数 報道2社
- 8 挨拶
市長挨拶

本日は第6回の総合教育会議です。今後、社会のグローバル化が進む中でどのように対応していけばよいか、また、その中で、地域文化を継承していくこと、さらに、子ども達がそのような社会で成長し地域に定着していくことについて、考えていきます。本日は、「グローバル化に対応した教育環境の整備について」というテーマで意見交換をしていきますのでよろしくお願いします。

- (1) グローバル化に対応した教育環境の整備について(学校教育の取組)(進行:教育長)

教育長 本日は、外国語教育について意識をしながら話し合いを進めていきます。まず、先ほどの英語の活動(5年生)について感想をいただきたいと思います。

私は、昔自分たちが受けた授業とは全く異なり、あの児童たちが大人になったら、外国の方々に対する考え方や対応力が身につくだろうと感じました。

伊藤委員 素晴らしい授業だと思いました。昔は、外国の方々にいきなり話しかけられると何を話したらよいか分からなくなり、英語の知識を少し持っていたもどう答えたらよいか分からないということがありがちでしたが、子どもたちが楽しむ中でコミュニケーションについて学び、授業に対しても違和感が無い様子が見受けられました。

佐藤委員 子どもが英語教室に通ったことがあります。小学生の時に学んだ英語は、発音や表現を楽しみながら学ぶということで、高校まで役立ったということです。

今日の授業も同様に、楽しい中にもしっかりと英語表現を教えており、一関の小学校で続けて行われるということがとても良いことだと思います。

千葉委員 小学校の英語に対するイメージが変わり、将来が楽しみになる授業でした。我々も学生時代には英語を勉強しましたが、外国の方々が近くに来ると避けてしまうような臆病なところがありました。国際化した教育を受けるとそういうことが無くなると思います。また、実用的な英語ということで分かりやすく、リズムを取りながら行うなど、児童の興味をひく工夫した進め方でした。

市長 ゲーム感覚が大事だと思いました。学校でコミュニケーションを教えるのは、難しいですが、このようなやり方をすれば身に付くと思います。例えば、ILCの誘致が実現した場合、外国から研究者とその家族の方々が来ることとなりますが、子どもの教育については、母国語での教育か英語での教育か、日本語での教育か、ニーズが様々になると予想されます。先ほどの授業を見て、子ども達には柔軟な対応力があると感じました。

教育長 現在学校で行われている外国語教育の状況と今後の方向性について、資料にまとめていますので説明します。

教育部次長兼学校教育課長：資料により説明

千葉委員 資料の「グローバル化に対応した新たな英語教育に向けて」の中学校の欄で、「授業を英語で行うことを基本とする」とありますが、ついていけない生徒や取り残される生徒はいないのでしょうか。

指導主事 教師が授業で英語を使うのはもとより、生徒自身が授業で英語を使うというのが英語の授業の基本ということで、日本語の資料を英語の授業ですというものではありません。

教育長 現場では慣れてきており、先生方も授業で半分英語を混ぜて行ったりしているようです。

伊藤委員 オーストラリアに居たことがあります。はじめシドニーの空港で他愛のない会話が全然分からず、学校で英語を学んだのは何だったのかとショックを受けたことがあります。今日の授業のように、コミュニケーション能力や外国の方々に接するうえでの自信を身に付けることが、これから国際舞台で活躍する子ども達には必要だと思います。子ども達は遊びながら肌で英語を覚え、会話ははっきりと分からなくても何とか答えようとします。これから目指す英語教育はそういうことが大切です。また、英語には、議論をしたり、自分の思ったことをはっきりと述べるのが美德とされる価値観があるということを知りました。

市長 資料で「中学生最先端科学研修(つくば市)」のことについて触れていますが、国際研究所の英語が飛び交う中で、研究者の方々の打合せや会議の場面を生徒に見学してもらうのもよいかと思いました。英語という言語を学ぶだけではコミュニケーション力がつくとは言えず、会話の技術だけでなく、相手を観察する、うなずく、目線や動作も含め総合的なものであると思います。

教育長 一関市はALTの人数が多く、子どもたちがその授業に接する機会に恵まれています。学力を向上させるだけでなく、多少ブロークンな英語やジェスチャーであっても外国の方々に対して臆せず接することができるようにしていくこと

を目指しています。

佐藤委員 資料の「小中学校学習指導要領改訂のポイント」で「小中高一貫した学びを重視し、(以下略)」とありますが、小中連携の形で中学校の先生が小学校で英語を教える機会を持つ可能性はあるのでしょうか。また、「英語教育の方向性」の一つとして、「日本人としてのアイデンティティ形成に関する教育の充実」が挙げられていますが、どのような形で行っていく予定ですか。

教育長 中学校の先生が小学校に行き行って教えるということは今のところ考えていません。小学校の先生が子どもたちと一緒にコミュニケーションについて学ぶことや学ぶ姿を見せることが大事だと思います。アイデンティティの形成については、国際化の中で単に外国語を話せるだけでなく、日本人としての自覚や自信をしっかりと持って国際社会を生きていくことだと思います。一関でも、地域について学び、子ども達に地域に対する誇りをしっかりと根付かせていくことが大切だと思います。

千葉委員 コミュニケーション能力の育成は英語に限らず、日本語でのコミュニケーションにも関係があると思います。日本語や日本の心を大切にしたいコミュニケーションを前提としたうえで、英語でのコミュニケーション能力の育成があるべきではないかと思えます。世界が今、ナショナリズム的な内向きになりがちですが、一関で力を入れている英語教育については、これからも推進して欲しいと思います。

教育長 学校以外でも外国語や国際化の取組をしているので、まちづくり推進部から情報提供します。

(2) グローバル化に対応した教育環境の整備について(社会教育の取組)(進行:教育長)

事例紹介 「英語の森キャンプ事業」(説明:まちづくり推進部いきがづくり課)

事例紹介 「山目市民センター少年事業 英語劇」(説明:まちづくり推進部まちづくり推進課)

千葉委員 「英語の森キャンプ事業」をまちづくり推進部で行っているということで、教育分野だけでなく行政でもグローバル人材の育成という国際化が進んでいると感じました。

伊藤委員 地域で子どもたちを育てる意識を高めることは、今の日本の教育で重要なことであると思います。外国の人々は、日本の伝統文化や歴史に強い興味を示します。外国でコミュニケーションを図る際に、よく日本の歴史・伝統文化が話題の中心になりますので、子どもたちにしっかりと身に付けてもらうことが、今後世界の人々と対等な関係を築き、日本人として理解してもらうために必要であると思います。

佐藤委員 事例紹介の事業について、地域の歴史文化の紹介と英語の学習が一緒になった取り組みということで、とても良い事業だと思います。国際化の中で、外国の方々が市内の色々な場所に増えてきており、子どもたちだけでなくどんな年代でも接する機会が多くなっています。少しでも交流ができるように社会教育での取組を進めるとよいと思いました。

教育長 地域の先人を取り上げているということですが、地域の先人を誇りとするこ

とが一関の教育の大きな柱であり、外国文化をいち早く取り入れた国際人である先人の業績について、子どもたちに伝えることの大切さを感じています。

市長 ILC誘致が実現した場合に、まず世界中から注目され多くの視察の方々が訪れることが予想されます。その際に、一関についての紹介で子ども達の出番を作り、色々な経験をする機会があればよいと思いました。

教育長 平泉では、案内を中学生がしたりしています。学校教育では、今、英語を机上の学問ではなく生きた学習にすることが求められています。アクティブラーニングや失敗をしながら経験を積む学習が重視されており、子ども達の出番を作るということは、真の学習につながると思います。また、資料のとおり、外国にルーツをもつ児童生徒も多くなっています。色々な国の方々と接する機会が多く、文化や習慣の違いで難しい面もありますが、そのようなことにも折り合いを付けながら自分の考え方をきちんと話すことができる教育が必要になってくると思います。

伊藤委員 国際化に向けた教育環境の整備ということでの市の姿勢は、大いに子ども達のためになることだと思います。海外で様々な活動をする場合にも英語が生きてきますし、生きた英語教育の推進を今後も継続して行ってほしいと思います。

佐藤委員 一関の場合は、充実した教育環境を整え、また、ILCで言葉と科学ということを大切にしています。グローバル化により地球が小さくなり、先人達の時代に比べて、苦勞せずに色々な言語や科学に身近に接する機会がありますので、今後一層よりよいまちづくりや人づくりが展開できるように努めていくべきと感じました。

千葉委員 ALTの配置や「ALT NEWS」の発行という取組は、国際化に非常に価値があると思います。まちづくり推進部の取組も一関の財産となるものであり、これからも推進して行ってほしいと思います。

教育長 先日、大槻玄沢についての講演を聞きましたが、当時の研究では、オランダ語の医学書について、辞書が全くない状況で1つの単語について皆で予想しながら解読していったということです。その時代に比べるとものすごい変化です。新しいものを学ぼうとする、また、吸収しようとする意欲が教育の基本となり、色々な事につながっていくことを感じ、今日の皆さんのお話から、一関の誇りとして教育の取組を進めていくことが必要だと感じました。

市長 まず、目の前にいる相手の方々を理解することが大切になってくると思います。忠臣蔵サミットで岡山県津山市に行った際に、大槻家と交流があった方の資料館に行きましたが、大槻家について、こちら側がまだ知らなかったことを教えてもらったりしました。それと同様に、まず相手（の国や文化）を知ろうとすることが大切で、グローバル化につながるものだと思います。

9 担当課

市長公室政策企画課